

梅鶯仏教壮年

第40号
2006年
11月12日

法輪寺報恩講

本堂改修慶讃法要

明年1月27日（土）

梅鶯仏壯報恩講

明年1月28日（日）

法輪寺本堂の改修は、好天にも恵まれて順調に進み、ほぼ完成されました。今月中には内陣の仏具を搬入し、阿弥陀様をご安置できる予定であります。つぎましては、繰り延べとなっておりました法輪寺の報恩講・本堂改修慶讃法要、ならびに梅鶯仏壯報恩講を右記の通り厳修させて頂くこととなりました。皆様方には改修中にもかかわらず迷惑をお掛け致しましたが、法要には是非ともお参り頂きたくお願い申し上げます。

~~~~~

なにごともしない。そう！  
急いではいけない。  
あせつてはいけない。  
百花はそれぞれ四季おりおりの時季  
を得て咲き、万事は時節が到来して  
成就するもの！  
あわてては！あせつては、かえつて、  
ことをし損じる。  
（寺川幽響先生）

ご遺骨にはどんな意味があるのでしょうか？

去る10月29日に、法輪寺の大谷本廟納骨参拝ツアーが実施され、多くの方に参加を頂き、有意義で楽しい一日を過ごして頂きました。  
そこで「お骨にはどんな意味があるのですか？」「なぜ納骨するのですか？」という素朴な疑問にお答えします。

私達は、だれしも自分の体は愛縁あつて大切なものです。それは、この体とともに「わたくし」というものが存在しているからです。けれども人々として命が終り、幸いにもお浄土に往生し、仏さまと成らさせて頂いた時には、仏もこの愛おしい体にさえも執着する必要のない世界に生まれさせていただきます。頂くのです。  
ですからその段階では、屍（しかばね）もお骨もただの物質にすぎず、「お骨に魂が宿っている」とか「供養しなればたたりがある」とか「などと考えるの全くの迷信に過ぎません」。  
親鸞聖人は「改邪鈔」という書物の中で、「親鸞閉眼せば、賀茂河にいて魚にあたふべし・賀茂・川に放つて、魚に食べさせてください」と仰っています。これは親鸞聖人の時代にも、死

心であつたことから、「本當に大切なものは、この私がお念仏によつて仏とならさせて頂くことです」

とお諭しになられたのです。  
では、何故私達は「納骨」をするのでしょうか？

それは、お骨を通じて故人を偲び、長く祖先から引き継いでくださつたお念仏を、子孫ともどもに悦びあう法縁の場としてお骨をお納めするのです。

「先（さき）に生まれんものは後（のち）を導き、後に生まれんものは前（さき）を訪（とぶら）へ」との仰せもあります。

私達は、今、お念仏のみ教えに出会えたことを悦ぶとき、祖先を偲び感謝をしなればなりませぬ。いかなばなりませぬ。縁を結ぶためのもの納骨は、その

からです。

お骨より、もつと故人を偲ぶことを

ができるものがあれば、

その縁を

とすること

とであります。



納骨参拝

本殿寺門

# 法輪寺の

前号からの続き

世継村（米原市世継）に  
滞在された蓮如上人から教  
化を受け、「法名」と「慶  
字の名号」を授かった俊  
こと長野滋兵衛によつて宇  
賀野村（米原市宇賀野）に  
坊舎が建立され、その坊  
が法輪寺のルーツとなりま

口長野家のルーツ  
ここでも、少し余談になり  
ますが、長野滋兵衛からは  
じまり法輪寺を護持するこ  
ととなり、長野家のルーツ  
を訪ねてみます。  
遠くさかのぼること第五  
十一代の天皇に平城天皇  
（在位806〜809年）  
という方がおられ、その皇  
太子である阿保親王の五男  
に「業平」という名の子が  
ありました。  
業平はのちに皇族を離れ  
て「在原」の姓を授けら  
れた関係で、在  
原業平（825〜  
880年）として歴



史上に登場してきます。  
代在在原業平は、平安時代の  
・三十六歌仙の一人として  
有名で、京都の貴族階層と  
して覇気もあり歌才にもす  
ぐれていたそうです。  
ぐれた「一世に美男子を見れ  
ば業平のよう」と当時も  
てはやされたというエピソード  
ドも残されています。  
失脚する皇子親友であつた  
文徳天皇の皇子惟喬親王が  
のあおりを受け、難を逃れ  
て滋賀県の乗鞍山麓の在原  
集落（現在のマキノ町在原  
村）に来て、そこで美女と  
結び、数年を過ごされたそ  
うです。  
千早も聞かず  
神代も聞かず  
からくれないに  
水くぐるとは  
という小倉百人一首に出  
てくる有名な歌は、ここで  
詠まれたものです。  
町在原村は、現在のマキノ  
屋根の素朴な佇まい  
の家が連なり、農村  
の風景が残された所  
とても素晴らしい所



です。  
在原集落の中央を今でも流  
れていますが、  
乗鞍山麓の林の中には、高  
さ65センチメートルほど  
の「業平」の墓も残されて  
います。  
村に移り、定着して「長野  
姓」を名乗ったといわれて  
います。  
れる小川を「長野家の前を流  
び、北陸本線にも「在原橋  
梁」の標記が今でも残され  
ており、長野家の由緒を伺  
わせれます。  
口本格的な法輪寺のはじま  
り  
さて、俊慶こと長野滋兵  
衛によつて立てられた坊舎  
は、長野家によつて護持さ  
れてきたのですが、151  
6年（永正十三年）には、  
西本願寺の第九代宗主であ  
る実如上人から「ご本尊」  
と「六字名号」が下附され  
ました。  
1649年（慶安  
二年）には、長野  
家より得度した法



名「道西」が、坊舎を再建  
するとともに、法輪寺の初  
代の住職となり、ここに本  
格的な法輪寺のはじまりを  
迎えたのです。  
その後、第三世の住職慶  
順（1695〜1738  
年）のときには、西本願寺  
第十四代宗主寂如上人より  
「寺号法輪寺」  
「ご本仏尊像」  
「親鸞上人」  
「蓮如上人」  
「聖徳太子」  
「七高僧」  
のご影を下附されており、  
同時に山号を「莊嚴山」と  
称することとなりました。  
現在の住職は第十一世で  
あります。が、これまでの永  
い年月の間、法輪寺では数  
々の歴史を重ねてきたこと  
であり、親鸞上人等のご影（掛  
け軸）等、そしてそれを黙  
々と守り続けてくれたご本  
堂、それらは今も  
厳然と私達を見守  
り続けておられます。  
さるのであります。

